

平成30年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、法人ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

（1）期日

平成30年5月19日（土）～20日（日）1泊2日

（2）参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人 30人

②参加人数

62人（高校生14人、大学生48人）

（3）講師等

1日目

講義1「ボランティア活動の意義」

内容：ボランティア活動の意義について理解するとともに、ボランティア活動における心構えや留意点を学ぶ。

講師：米良 重徳 氏（吉備国際大学保健医療福祉学部 特任教授）

説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」

内容：国立吉備青少年自然の家や、他の国立青少年教育施設における法人ボランティア活動内容を理解する。

報告：法人ボランティア2人（国立吉備青少年自然の家）

講義・演習1「ボランティア活動の技術」

内容：野外炊事の実践を通して、各施設の特性に応じたプログラムに対応するための知識技術等を学ぶ。

講師：瀧田 正宏（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）

2日目

講義・演習2「安全管理」

内容：救急手当や応急処置など人命救助に必要な知識・技術を講義や現場体験などから学ぶ。

講師：井上 桂 氏（下関市立深坂自然の森 森の家下関 所長）

講義2「青少年教育における体験活動」

内容：今日の青少年教育の課題や発達段階に応じた体験活動の必要性を理解する。

講師：眞鍋 洋三 氏（倉敷市少年自然の家 所長）

講義 3 「青少年教育施設の現状と運営」

内容：青少年施設の教育機能や役割、運営について理解する。

講師：高藤 佳明（国立吉備青少年自然の家 所長）

説明 2 「青少年教育施設におけるボランティア活動」

内容：法人ボランティア登録制度について理解する。

説明：佐藤 泰之（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

（４）企画・運営のポイント

- ① より多くの参加者を確保するために、本事業を広報する際、法人ボランティアが所属する大学（岡山大学、ノートルダム清心女子大学、岡山理科大学、中国学園大学）では、企画指導専門職による説明だけでなく、各大学の法人ボランティア数名にも広報活動に参加してもらい、経験に基づいた生の声で法人ボランティアの活動の様子を紹介を行った。
- ② 1 日目の説明 1 「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、参加者が当所でのボランティア活動のイメージできるように、当所で活躍する法人ボランティアが説明を行い、当所での教育事業や、他の国立青少年教育施設の法人ボランティアとの交流について紹介した。また、1 日目の夜の情報交換会では、各テーブルに法人ボランティアが分かれて入り、活動の具体的な内容やボランティア活動についての思いなどを語った。1～2 年後の自分の姿を参加者に感じさせる運営を行った。
- ③ 演習では実際に所内での活動（野外炊事、人命救助）を体験する中で、法人ボランティアとしての活動を行う上でのポイントを実感できるように企画した。

3. 活動の内容等

（１）日程

5 月 19 日（土）		5 月 20 日（日）	
9:30	受付	6:00	起床・洗面
10:00	開講式	6:45	清掃
10:30	講義 1 「ボランティア活動の意義」	7:15	朝のつどい
12:00	昼食	7:30	朝食・荷物移動
12:45	説明 1 「青少年教育施設における ボランティア活動」	9:00	講義・演習 2 「安全管理」
13:45	アイスブレイク	12:00	昼食
15:00	講義・演習 1 「ボランティア活動の技術」	12:45	講義 2 「青少年教育における 体験活動」
19:00	入浴	14:30	講義 3 「青少年教育施設の 現状と運営」
20:30	情報交換会	15:30	説明 2 「青少年教育施設における ボランティア活動」
22:00	就寝	16:30	閉講式

(2) 活動の状況



【講義1「ボランティア活動の意義」】



【説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【アイスブレイク】



【講義・演習1「ボランティア活動の技術」】



【講義・演習2「安全管理」】



【講義2「青少年教育における体験活動」】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① ボランティアの歴史やその魅力について学べて良かったです。
- ② ボランティアの全国的な組織があることに驚きました。先輩方からの話を聞くことで活動の魅力が伝わってきました。先輩方のように充実した大学生活を送って一緒に活動したいです。
- ③ アイスブレイクの活動を通して、初めて会った人とも話すことができ良かったです。とても楽しく、緊張がほぐれました。私も専門職の方のように独自の遊びを作ってみたいと思いました。

- ④ 久しぶりの野外炊事でした。ただするだけでなく、周りの人の行動や周囲の危険を考えなければいけないことに難しさを感じました。普段の生活の何倍もの注意力と視野が必要だなと感じました。
- ⑤ 危険な場面や応急救護について理解することができました。様々な状況でのリスクを想定し、現場に合った判断ができるように頑張ろうと思いました。
- ⑥ 様々なゲームを交えながら講義を進めてくださったので、楽しく学ぶことができました。岡山県における青少年教育の実情と、体験活動の大切さがよく分かりました。
- ⑦ 国立吉備青少年自然の家での具体的な活動が知ることができ、改めて法人ボランティアとして活動したいと強く思いました。全国の様々な施設で、多くの人と交流できるといいなと思いました。
- ⑧ この研修会に参加してよかったと思いました。ウーリーズのメンバーになってボランティアに参加して、自分を変えたいと思いました。

(3) 成果

- ① 各大学の法人ボランティアが所属大学の広報活動に積極的に参加したので、学生の中には法人ボランティアの活動に魅力を感じ、ボランティア養成研修に高い関心を示して参加していた。
- ② 法人ボランティアが参加者と一緒に活動を共にしたので、参加者のボランティアへの関心が高まり、交流も盛んに行われた。
- ③ ボランティア養成研修をより実りのあるものにするために、法人ボランティアが自主的に研修の1週間前に、国立吉備青少年自然の家の魅力を体感する「リメンバー山の学校」という自主事業を企画して実施した。所としては、この企画をバックアップし、ボランティア養成研修へと繋がる新規ボランティア獲得の流れを作ることができた。
- ④ 新たな参加者の確保として、法人ボランティアの繋がりにより、広報に行っていない大学からの参加者がいた。また、当所を頻繁に利用される高校の先生が、HPより当事業について知り、生徒たちに紹介したこともあって、例年に比べ高校生の参加が多かった。

(4) 今後の課題

- ① 今年度、広報できなかった大学や応募者数が少なかった大学などがあるので、反省点を踏まえて募集範囲を広げていきたい。
- ② 広報活動を展開できなかった学校からの応募も多く、アンケート結果から広報におけるホームページの有効性を強く感じた。多くの方が閲覧してくれているので、今後もしっかりと情報提供を行っていきたい。
- ③ 昨年に続き、ボランティア養成研修と自然体験活動指導者（NEAL）養成事業の一部を兼ねた。自然体験活動指導者（NEAL）養成事業の参加者が、法人ボランティアに登録を望んだが、規定により登録を断らざるを得ない状況があったり、両事業に申込みしていたりと問題点もみられた。来年度はこの反省を踏まえて応募ができるように体制を整えていきたい。

担当：企画指導専門職 佐藤 泰之